

## 情報モラル教育実践授業報告書

対象学年	小学校4年生
領 域	学級活動（学級の諸問題）
指導項目	情報社会でのルール・マナーを遵守できる

情報モラル指導モデルカリキュラム ( <a href="http://kayoo.org/moral-guidebook/model/model-curriculum.html">http://kayoo.org/moral-guidebook/model/model-curriculum.html</a> )			
指導分野	法の理解と遵守		
コード	c2-1	指導事項	情報の発信や情報をやりとりする場合のルール・マナーを知り、守る。

授業前の児童の状況	<p>4年生になると、他の人の物を勝手に使ったり、盗んだりしてはいけないことを理解している。しかし、いけないということを理解しながらも、自分の気持ちを抑えきれずに、勝手に人の物を使ったり、盗んでしまったりする児童もいる。</p> <p>また、著作権については未習のため、絵や音楽など他の人が考えて作ったものが「人の物」という意識をもてず、アニメ等のキャラクターなどを勝手に使ってもよいと考える児童は多いと思われる。</p>
期待される児童の変容 (ねらい)	<p>著作権を理解することにより、「人の物」の範囲の広さに気付き、実際に存在する「物」はもちろん、他の人が考えて表現したものも含めた「人の物」を大切にすることができるようになる。</p>
児童の変容を促すための授業の工夫（ポイント）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「人の物を大切にすることができますか？」という発問をきっかけに、「人の物」とは何を指すのかを考えさせる。</li> <li>・「著作権」を身近なものとして感じさせるため、児童になじみのあるアニメのキャラクターを使って意識づけ（導入）をしていく。</li> <li>・他の人が作った絵や音楽などが「人の物」という意識をもたせるため、勝手に使うことでその人を傷つけてしまう場合があることを理解させる。</li> <li>・実際の事例をもとに、著作権が重要な権利の一つであることを伝えることによって、「人の物」と同様に、他の人が作った作品等についても大切にしなければならないという意識をもたせる。</li> </ul>
利用するコンテンツ等 (サイトのアドレス) または資料等	<p>映像教材</p> <p>情報モラル教育支援ソフト 「事例で学ぶNetモラル」 C-02 「著作権の概念を知る」</p> <p>概要 クラスのキャラクターを決める時に、自分のアイデアとして友達の考えたキャラクターを出してしまう主人公。友達に話をしようとするが欠席しているため話せない。迷っているうちにそのキャラクターがクラスのキャラクターに選ばれてしまう。</p> <p>ワークシート</p> <p>情報モラル教育支援ソフト 「事例で学ぶNetモラル」 C-02 「著作権の概念を知る」指導資料</p> <p>キャラクターの画像：数枚</p> <p>アンケートの集計結果を表したグラフ：数枚</p>

## 情報モラルにかんする意識調査結果（4年生全員対象）

☆ 次の中で、よいと思うものには○を、よくないと思うものには×をつけてください。

複数回答可。（）内に○と回答した人数を表示。対象児童は172名。

### 1 友達の消しゴムをかりたいとき

- ア) 友達に何も言わずに、消しゴムを使う。(2)
- イ) 友達に「かしてほしい」と伝えてから消しゴムを使う。(165)
- ウ) 友達に気づかれないように、消しゴムを使い、そっと返しておく。(1)
- エ) 友達がいなときは、消しゴムを使った後で「使ったよ」と伝える。(74)

### 2 ホームページやメールに友達のうつった写真をのせるとき

- ア) 自分のとった写真なら、友達に何も言わずに写真をのせてもよい。(5)
- イ) 友達のうつった写真は、かってにのせてはいけない。(159)
- ウ) ホームページに写真をのせた後で、友達に使ったことを伝えればよい。(18)
- エ) 写真に友達が大きくうつっていなければ、友達に何も言わずに写真をのせてもよい。(3)

### 3 友達が考えたダンスのふりつけを、ダンスクラブのみんなに教えるとき

- ア) 友達に何も言わずに、ダンスのふりつけを教える。(4)
- イ) 友達に「ダンスのふりつけを教えたい」と伝えてからみんなに教える。(166)
- ウ) ダンスクラブでみんなに教えてから、友達にそのことを伝える。(49)
- エ) 「友達にはないしょだよ」と伝えてから、ダンスクラブのみんなに教える。(13)

☆ 次のアンケートに答えましょう。一番近いものに○をつけてください。

複数回答なし。（）内に○と回答した人数を表示。対象児童は172名。

### 1 あなたは、人の物をかりることについて、どんな考えをもっていますか。

- ア) 人の物をかりることは、してはいけない。(19)
- イ) 人の物をかりるときは、相手のきよかをもらってからかりなければいけない。(149)
- ウ) 人の物をどうしてもかりたいときは、少しはおどしたりたたいたりしてもよい。(4)
- エ) 物をかしてくれなかったときは、相手の悪口を言ったり、いやがることをしたりする。(0)

### 2 あなたは、ホームページやけいじばんのように、だれでも見るができるところに、友達の考えたキャラクターをしょうかいしたいと考えました。どこまでくわしく、しょうかいますか。

※ 友達には、まだ何も話していないとして、考えましょう。

- ア) 友達の名前や写真、キャラクターのイラストをのせてくわしくしょうかいする。(24)
- イ) 友達の名前とキャラクターのイラストはのせるが、写真はのせない。(15)
- ウ) 友達の写真とキャラクターのイラストはのせるが、名前はのせない。(13)
- エ) 友達の考えたキャラクターのイラストだけをのせる。(53)
- オ) 名前も写真もイラストものせない。(67)

3 あなたは、周りの仲間を大切にしていますか。

- ア) 仲間を大切にしている。(106)
- イ) 仲間を大切にしているが、できないときはある。(63)
- ウ) あまり仲間を大切にしていない。(2)

4 あなたのクラスの子は、周りの仲間を大切にしていると感じますか。

- ア) ほとんどの子が仲間を大切にしている。(78)
- イ) 仲間を大切にしている子は多いが、イライラしたり、気分がわるかったりするときに、仲間を大切にできない子はいる。(92)
- ウ) 仲間を大切にしている子は、少ないと感じる。(2)

5 あなたは、人の物やみんなの物を大切にしていますか。

- ア) 大切にしている。(160)
- イ) 人の物を大切にしているが、みんなの物はあまり大切にしていない。(8)
- ウ) みんなの物を大切にしているが、人の物はあまり大切にしていない。(4)
- エ) 人の物もみんなの物も、あまり大切にしていない。(0)

6 あなたのクラスの子は、人の物やみんなの物を大切にしていると感じますか。

- ア) ほとんどの子が大切にしている。(133)
- イ) 人の物を大切にしている子は多いが、みんなの物を大切にしている子は少ない。(30)
- ウ) みんなの物を大切にしている子は多いが、人の物を大切にしている子は少ない。(7)
- エ) 人の物もみんなの物も、大切にしている子は少ない。(2)

7 「著作権（ちょさくけん）」ということばを、聞いたことがありますか。

- ア) 聞いたことがある。知っている。(15)
- イ) 聞いたことはない。(157)

8 「著作権（ちょさくけん）」とは、何だと思えますか。かんたんにかきましょう。

<自由記述>

- ・自分の考えた権利
- ・人が作ったものを、まねして公表すること
- ・人が書いた本は、その人の許しがないとまねをしてはいけないこと
- ・仲間を大切にしているかを調査したり、人の物を勝手に使っていないかを調査したりすること
- ・物を作る権利
- ・人が作ったこと、人が考えたこと
- ・自分のものだという権利
- ・例えば、Aさんが作ったゲームソフトが、Bさんによってコピーして「自分が作った」ということから、Aさんなど著作権者を守ること

## 授業実施後のアンケートの結果（4年生1クラスのみ）

☆ 次の中で、よいと思うものには○を、よくないと思うものには×をつけてください。

複数回答可。（ ）内に○と回答した人数を表示。対象児童は35名。

### 1 ホームページやメールに友達のうつつた写真をのせるとき

- ア) 自分のとった写真なら、友達に何も言わずに写真をのせてもよい。(1)
- イ) 友達のうつつた写真は、かつてにのせてはいけない。(33)
- ウ) ホームページに写真をのせた後で、友達に使ったことを伝えればよい。(2)
- エ) 友達が大きくなければ、友達に何も言わずに写真をのせてもよい。(2)

### 2 友達が考えたダンスのふりつけを、ダンスクラブのみんなに教えるとき

- ア) 友達に何も言わずに、ダンスのふりつけを教える。(1)
- イ) 友達に「ダンスのふりつけを教えたい」と伝えてからみんなに教える。(33)
- ウ) ダンスクラブでみんなに教えてから、友達にそのことを伝える。(4)
- エ) 「友達にはないしょだよ」と伝えてから、ダンスクラブのみんなに教える。(0)

☆ 次のアンケートに答えましょう。一番近いものに○をつけてください。

複数回答なし。（ ）内に○と回答した人数を表示。対象児童は35名。

### 1 あなたは、ホームページやけいじばんのように、だれでも見るができるところに、友達の考えたキャラクターをしょうかいしたいと考えました。どこまでくわしく、しょうかいますか。

※ 友達には、まだ何も話していないとして、考えましょう。

- ア) 友達の名前や写真、キャラクターのイラストをのせて、くわしくしょうかいする。(2)
- イ) 友達の名前とキャラクターのイラストはのせるが、写真はのせない。(2)
- ウ) 友達の写真とキャラクターのイラストはのせるが、名前はのせない。(1)
- エ) 友達の考えたキャラクターのイラストだけをのせる。(8)
- オ) 名前も写真もイラストものせない。(22)

### 2 「著作権（ちょさくけん）」について学習してから、あなたはどうなりましたか。

- ア) 「著作権（ちょさくけん）」について、いしきすることが増えた。(25)
- イ) 前とあまり変わらない。(10)

### 3 「著作権（ちょさくけん）」とは、何ですか。かんたんにかきましょう。

<自由記述>

- ・自分の大切なもの
- ・形があるものも、ないものも、それを持っている人の権利。
- ・形があるものや形のないものも、盗んだらいけない大切なもの。
- ・形のあるもの、ないもの、全部その人の大切なもの。

#### 4 授業（著作権を知って）の感想を書きましょう

##### <自由記述>

- ・著作権が何かよく分かってよかった。
- ・いろいろなやっていけないことがいっぱい分かったし、前よりももっと意識しようと思った。
- ・著作権の授業をしてから意識するようになりました。友達を大切にしたいという気持ちが出てきました。
- ・著作権は大切だということが分かりました。人が怒ったり、悲しんだりするんだなと思いました。
- ・著作権を知って、人の大切なものを使いたいときは、その人に聞いてから使うことを知りました。
- ・人の物を使うときなど、絶対その人に聞く。自分がやられて嫌なことは、人には絶対にやらない。
- ・とてもためになった。またやってほしい。

##### 授業後の児童の意識

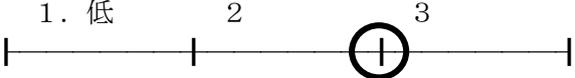
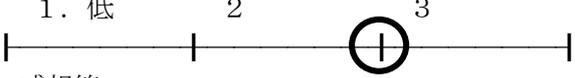
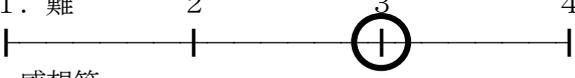
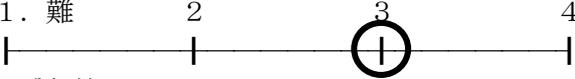
###### ➤ 著作権について

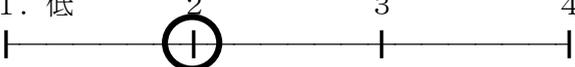
- ・形のあるものも、ないものも、作った人や考えた人(本人)に聞いてから使う。
- ・人の物や人の考えたものを、勝手に使ってはいけないということが分かった。
- ・形のあるもの、ないもの全部、友達の大切なものだから、使うときは許可をとる。

###### ➤ 人や人の物を大切にすることについて

- ・相手が嫌がるようなことをしない。
- ・物など借りるときは、絶対にその人に聞いてから借りる。人の気持ちを考える。
- ・もし、貸してほしいものがあったら、友達に言う。少し使いたいときも言う。人の気持ちを考え、理由も言う。
- ・人の気持ちを考えてから行動する。
- ・人の心を考えて行動する。自分は、やられたらどうかを考える。

# 評価

児童について	<p>児童の興味関心の度合い</p> <p>1. 低                      2                      3                      4. 高</p>  <p>理由・感想等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャラクターやイラストなど，児童の関心の高いものを利用して授業展開をしたので，児童の関心が高く感じられた。その関心の高さを「著作権」につなげることができた。資料は，共感的に扱うことができた。</li> </ul>
	<p>児童の理解度</p> <p>1. 低                      2                      3                      4. 高</p>  <p>理由・感想等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「人（の物）を大切にすること」を柱に，「人の物」には何があるのかを考えさせることができた。ほとんどの児童が，「人（の物）は大切にしなければいけない」と理解しており，今回の授業を通して，その意識を高めることができた。</li> </ul>
	<p>児童の変容の度合い</p> <p>1. 低                      2                      3                      4. 高</p>  <p>理由・感想等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「人（の物）を大切にすること」の重要性を，児童はよく理解している。しかし，イライラしたり，欲が出たりすると，人（の物）を大切にできないことがある。感情をコントロールして「人（の物）を大切にすること」という意識を行動で示すことができるようになるには，今後も指導を継続して行う必要がある。</li> </ul>
授業について	<p>事前準備の難易度</p> <p>1. 難                      2                      3                      4. 易</p>  <p>理由・感想等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の指導案や教材として「Net モラル」を利用したので，準備は容易であった。さらに，児童の実態に応じて，他の教材も利用するなどの工夫も必要である。また，アンケート等により児童の実態を調査して授業を行うことで，指導のポイントが明確になり，効果的な指導を行うことができた。</li> </ul>
	<p>指導者にとっての授業展開の難易度</p> <p>1. 難                      2                      3                      4. 易</p>  <p>理由・感想等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「Net モラル」は，児童にとって考えやすく共感できる教材であるため，指導がしやすい。「情報モラル」の基本となる部分が，日常生活での「モラル」であることを理解して授業を行うことができれば指導がしやすくなる。</li> </ul>
	<p>授業の「ねらい」の達成度</p> <p>1. 低                      2                      3                      4. 高</p>  <p>理由・感想等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習のまとめで，児童に感想等を書かせたところ，「相手の許可を得ること」「相手の気持ちを考えること」「先のことを考えて判断すること」など，授業のねらいに迫ることができたと感じるものがほとんどであった。しかし，この授業の後も，児童が感情をコントロールできずに「人（の物）」を大切にできていない指導事例も発生しており，指導の難しさを感じた。</li> </ul>

	指導方法の 効果の度合い	<div style="text-align: center;"> <p>1. 低                      2                      3                      4. 高</p>  </div> <p>理由・感想等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「人（の物）を大切にすること」をベースに、「人の物」が意味する範囲を広げることができたと感じた。「人（の物）を大切にすること」行動がまだできていない事例もあるが、継続的指導が大切であり、機会をみて指導をすることで効果が高まると考える。</li> </ul>
--	-----------------	--

<実践の感想及び反省点等>

- ・児童は「著作権」についてほとんど知識がなかったが、児童にとって身近に感じるアニメのキャラクターを使って学習を進めたことにより、児童の関心を高めることができた。また、日常のモラルと情報モラルを結びつけながら授業実践をしたことで、「著作権」を「人の物を大切にすること」と関係をもたせることができ、児童にとって「著作権」が身近に感じられたようである。本時の指導を通して、日常のモラルという土台の上に情報モラルが成り立つことを、改めて感じる事ができた。
- ・本時の資料は、登場人物の気持ちを理解しやすく、児童は共感的に感じる事ができたと考えられる。そのため、「人（の物）を大切にすること」について、多くの児童は「人（の物）」を「人の考えたもの」「人の作ったもの」にまで広げることができた。課題は、児童が理解したことを日頃の行動に反映させる実践力を高めることである。継続して指導をすることが大切と考える。
- ・今回の授業は、教員経験が少ない教員が最初に実践し、その後、同じ学年の他のクラスの教員も実践を行った。若手の教員は、日頃から情報機器を活用し、情報モラル教育の大切さや必要性を実感している。情報モラル教育は、こういった若手の教員から発信することができ、個のもっている力を学校内で生かすことができる。今回の実践では、若い教員の意欲とベテランの教員の指導技術が融合し、それが学年や学校の活力となっていく可能性を感じた。

## 実践例

配当時間	学習のすすめ方	指導のポイント
導 入  10 分	<p>1 テーマ「人の物を大切にすること」について知る。</p> <p>2 人の物を大切にしているか、自分の日頃の態度を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・できている。</li> <li>・できない時がある・</li> <li>・「写真」は勝手に使ってはいけない・</li> <li>・友達の考えた「キャラクター」ぐらいいいだろう。</li> </ul> <p>3 2つのキャラクターを比べる。</p> <p>キャラクター・・・「ミッフィー」と「キャシー」</p> <p>引用 「著作権侵害でサンリオを提訴」 2010年10月21日 中日新聞 朝刊に掲載</p> <p>※ 和解の記事あり（2011年 6月8日 中日新聞）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・似ている</li> <li>・似ていない</li> </ul> <p>4 キャラクターがもとで、問題が起きた映像を使って学習を深めていくことをつかむ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どこまでが「人の物」になるのかを考えさせる。</li> <li>・児童の実態を表すアンケート結果を示すことで、学習意欲が高まる。</li> <li>・「著作権」が問題になったことを知らせ、「著作権」について紹介する。</li> </ul>
展 開  30 分	<p>5 映像クリップを見る。</p> <p>Netモラル C-02 「クラスのマーク“ピーチくん”」</p> <p>6 キャラクターに対する作成者の思いを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が作った大切なマーク。</li> </ul> <p>7 クラスのマークになったことを知った作成者の気持ちを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大切にしていたマークを勝手に使われてショック。</li> <li>・自分だけのマークにしていたかった。</li> </ul> <p>8 キャラクターをまねてしまった主人公が、どうすればよかったのかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・勝手にまねをするのはよくない。</li> <li>・作成者に、あらかじめ確認しておくべきだった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・かけがえのないマークであることを押さえる。</li> <li>・無断で使用されたときのつらい気持ちを押さえる。</li> </ul>

		<p>9 著作権について、理解を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人が作った作品は、許可をもらわずに勝手に使うことはできない。</li> </ul> <p>10 人の作品を使うときの、自分の行動を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人の作品を使うときは、必ず相手の許可をもらってから使います。</li> </ul> <p>11 いろいろな事例を知り、身近に感じる事例を取り上げ、大切に守られている権利の一つであると確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・著作権侵害による訴訟・逮捕の記事を時々目にする。</li> <li>・そんなに重い罪になるんだ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「著作権」というきまりが定められていることを押さえる。</li> <li>・キャラクターだけでなく、作文や音楽、など、人が考えて表現したものに著作権があることを確認する。</li> <li>・ワークシートにまとめさせる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「著作権」は大切な権利の一つであると確認する。</li> </ul>
ま と め	5 分	<p>12 日頃の自分の行動について、気をつけることをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人の物は勝手に使いません。</li> <li>・人の作品をまねするときは、許可をもらいます。</li> </ul> <p>13 本時のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のものも大切にしていこう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一生懸命、心をこめて何かを作ったことのある人は、自分を大切にすることができる。自分の物を大切にできる人は、人の物を大切にできることを伝える。</li> </ul>